

# 26年11月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 10月20日～ 26年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は9社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		26/11月	26/12月	27/1月
伐採動向	スギ	12.5	18.8	6.3
	ヒノキ	△ 8.3	8.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	25.0	18.8	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 10.0	△ 20.0
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	8.3	8.3	△ 8.3
	ヒノキ	0.0	16.7	0.0
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	エゾ・トド	0.0	△ 50.0	△ 50.0

- ・スギの伐採は3ヵ月連続の増加、ヒノキは11月の減少から12月は増加し、27年1月は横ばいに、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。
- ・スギの出荷・販売は11月、12月の増加が、27年1月は横ばいに、ヒノキは11月の横ばいが12月、27年1月は減少に。カラマツは11月の増加が12月、27年1月は横ばいに、エゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。
- ・手持ち立木在庫は、スギは11月、12月の増加が27年1月は減少に、ヒノキは11月の横ばいが12月の増加を経て27年1月は横ばいに、カラマツは11月の横ばいから12月、27年1月は増加に、エゾ・トドは11月の横ばいから12月、27年1月は減少に。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負が完了し、これからトドマツの立木販売の間伐をする。合板材以外はトドマツに不足感があり伐採は通常通りの生産をする。
- ・スギ、ヒノキともに控えめに伐採。
- ・年末年始休暇、積雪前の追い込みも立地条件悪く、横ばい。

#### (出材・販売動向)

- ・トドマツは合板工場の合板材に過剰感があり単価は下がり、納材調整がある。その他一般材とパルプ材は不足感あり動きは良い。
- ・スギ11,000円/m3程で保合、カラマツ弱含み。

#### (手持ち立木在庫)

- ・立木販売箇所の素材生産現場で伐採が進むにつれ、立木在庫は減少していく。まだ、不足感はない。
- ・全般的に弱含みのため買い入れ控えめ。